

令和7年度第5回和歌山県医療対策協議会 議事録

【日時】令和8年3月27日（金）16:00～17:30

【場所】和歌山県庁 北別館2階 大会議室

【次第】

1. 開会

2. 挨拶（和歌山県福祉保健部 雑賀技監より挨拶）

3. 議事（※下記（1）～（9）のとおり進行）

- （1）医師臨床研修病院の指定継続について【議案】
- （2）基幹型臨床研修病院における臨床研修病院群の変更について【議案】
- （3）令和9年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員（案）について【議案】
- （4）令和8年度の地域枠の医師派遣について【報告】
- （5）専門研修に係る令和8年度の採用状況及び令和9年度シーリング案について【報告】
- （6）和歌山県立医科大学医学部地域枠の募集人員の変更について【報告】
- （7）次期医師確保計画の策定に向けたスケジュールについて【報告】
- （8）和歌山県立医科大学地域医療支援センター 活動報告【報告】
- （9）その他

4. 閉会

【議事】

[議題（１）医師臨床研修病院の指定継続について]

（事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長）

医師臨床研修病院の指定継続について説明（【資料１】関係）。

（平石会長）

事務局より、医師臨床研修病院の指定継続について説明があった。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

（西森委員）

本実地調査は、毎年実施されているのか。

（事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長）

令和５年度、７年度と２年に１回調査している。それ以前は、国の所管だったので近畿厚生局が調査を実施していた。

（駿田委員）

本件の病院は審査基準が厳しい JCEP の認定を取っていると思うが、認定を取っていれば評価が優先されるといったことはないのか。

（事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長）

JCEP の認定を取得するための書類も参考資料として頂き、病院側の負担が軽減されるように実施した。ただし、今回はあくまで医師法の規定により調査するものなので、優先ということはない。

（平石会長）

それでは、本件の病院の医師臨床研修の指定継続について、協議会として承認するという事によろしいか。

<協議会委員（首肯）>

異議なしとし、事務局においてはこの方向で進めるようお願いする。

[議題（２）基幹型臨床研修病院における臨床研修病院群の変更について]

（事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長）

基幹型臨床研修病院における臨床研修病院群の変更について説明（【資料２】関係）。

（平石会長）

事務局より、基幹型臨床研修病院における臨床研修病院群の変更について説明があった。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

(平石会長)

ないようなので、基幹型臨床研修病院における臨床研修病院群の変更について、協議会として承認するということでよろしいか。

<協議会委員(首肯)>

異議なしとし、事務局においてはこの方向で進めるようお願いする。

[議題(3) 令和9年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員(案)について]

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

令和9年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員(案)について説明(【資料3】関係)。

(平石会長)

事務局より、令和9年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員(案)について説明があった。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

(山下委員)

4ページ、令和8年度の研修医受入実績について、令和8年1月と記載があるが、国家試験不合格者や卒業できなかった学生は、マイナスになっているのか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

令和8年1月1日時点で各病院に確認した数値を入れているので、ここから国家試験不合格者等が若干減少する。

(山下委員)

では令和7年度の研修医受入実績については、国家試験の結果は反映された人数が記載されているのか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

反映されている。

(山下委員)

危惧している点は、要するに、国の計算式上国家試験に落ちる人が多ければ、必ず減っていくのかという点である。その分の補填として、3ページの⑤について、減少率が1%になるまで加算であるから、毎年最大1%まで減少することになる、ということか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

ご指摘のとおり、国の定員の計算に当たっては、最終の実績で計算されているため、国家試験に落ちた人が多いと定員は減少してしまう。

(山下委員)

国家試験の合格率は 100%ではないため、どこの地域も必ず 1%は減少していくことになるのか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

本県は減少傾向にあるが、人口が増加している都道府県や募集定員の上限が増加している一部の地域については、⑤の加算はない。

(山下委員)

ということは、和歌山県で⑤の加算が生じたのは、和歌山県の人口比率(①)が増加したことが要因か。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

和歌山県の人口比率は減少しているので、その分募集定員上限も減少傾向にあるが、これだと定員数が減少しすぎてしまうため、最後に⑤の加算をもらっている状況である。

(山下委員)

では、国の定員上限計算の際には、研修医受入実績はあまり影響ないということか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

直近の研修医採用人数は計算に影響を及ぼすので、県全体の採用人数が減少すると、④の激減緩和が受けることができる、できないといった影響がある。

(山下委員)

心配しているのは、令和7年度、8年度と本県の募集定員が減少している。総じて、国家試験に落ちた人は、定員減少の要因になるということだと理解した。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

定員減少要因になるので、できるだけ国家試験に落ちないようにしていかないといけない。

(駿田委員)

昨年も申し上げたが、県内での配分ルールについて、県内残留率が重要な項目であるということとは重々承知の上だが、県内残留率が30%以下で定員1名減少というのは、ペナルティに感じてしまう。県内に残ってほしい気持ちは我々も同じで、残留に向けてのアプローチも行っているが、結果として残留してもらえなかったことに対してペナルティが与えられるのは辛い部分がある。

和歌山県立医科大学附属病院や日赤和歌山医療センター以外の地域の中小病院が今回も減少の対象となっているが、地域に位置する中小病院は、3年目以降の専門研修プログラムを持っていないため、一旦プログラムを持つ医療機関で採用していただき、そこから派遣していただくという意味では、大病院の定員維持については進めていくべき。しかし医大や日赤への他力本願であり、自院の努力が報われない中で、定員減であることに、ペナルティ的なイメージを強く持っている。それぞれの病院が独自のプログラムを作成し、また県外からも研修医を集めている中で、県内残留率という基準を設定することには違和感を覚える。

ただ、県としての枠の上限もあり、どこかの医療機関から減らさないといけないという場合にこういう基準が重要視されるのは重々承知の上ではあるが、1つの意見として聞いていただければと思う。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

ありがとうございます。ご意見として賜ります。

(駿田委員)

先ほどの県内残留率を上げるということに関連してもう一点。スタッフからの聞取りだが、医大の各医局で、医局員を獲得するために研修会や説明会の開催など様々な努力をされていると思うが、そういった取組を外の病院の研修医にもアピールしていただき、各病院の研修医が、興味を持ってそういった場に参加し、結果的に将来残留してもらう、ということも検討していただきたい。和歌山県の研修ネットワークを用いて、県内残留率を上げていく取組を考えていただければと思う。

(平石会長)

ぜひ考えていただければと思う。

それでは、令和9年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員(案)について、協議会として承認するというところでよろしいか。

<協議会委員(首肯)>

異議なしとし、事務局においてはこの方向で進めるようお願いする。

[議題(4) 令和8年度の地域枠の医師派遣について【報告】]

(事務局 医務課 小守主査)

令和8年度の地域枠の医師派遣について説明(【資料4】関係)。

(平石会長)

事務局より、令和8年度の地域枠の医師派遣について説明があった。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いします。

(橋爪委員)

和歌山県人口が減少していく中で、医師数が多すぎると評価され、自院への派遣人数が2名より増加しないのではないかと心配している。その場合、運営が成り立たなくなることを心配している。派遣人数について、今年度は53人、来年度は66人の見込みとなっているが、13人増加したうち、何名かは自院への派遣をいただけるのか。

(事務局 医務課 小守主査)

3ページの棒グラフについて、特定診療科を選択している医師も含んでいるので、その分が6名より減少する。ただそれでも内科派遣が可能な人数は、今年度より増加する見込みであるの

で、キャリア形成プログラムの見直しを図り、内科の派遣医師を確実に確保することを前提に、特定診療科に不足とされている外科等を選択できるように検討していきたい。

(平石委員)

他に意見等はないようなので、次の議題に移る。

**[議題（５）専門研修に係る令和８年度の採用状況及び令和９年度シーリング案について
【報告】]**

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

専門研修に係る令和８年度の採用状況及び令和９年度シーリング案について説明【報告】（【資料５】関係）。

(平石会長)

事務局より、令和９年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員（案）について説明があった。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

(山下委員)

今までは医師数によって計算されてきたものが、今は人口比によって計算されているため状況は緩和された。しかしシーリングは依然として存在し、さらに大阪府の内科シーリングが外れ、溢れて和歌山県に来ていた医師が来なくなってしまう可能性もある。和歌山県では現在でもシーリングがかけられているし、さらにそのシーリングの枠も埋まっていないので、和歌山県の内科の将来が心配である。

(中尾委員)

山下委員の問題意識は、シーリングも埋まらない状況で、将来の内科専攻医獲得に向けてどのような働きかけを行うのか、ということだと理解した。これは常に考えているところである。大学としては初期研修医を増加させることも大切ではあるが、将来の医療を支える専攻医の獲得も重要であるため、各診療科で努力し、魅力ある教室であることを初期臨床研修医に示していくことが大切であると認識している。

また、先ほど駿田委員の発言でもあったが、大学としても関連病院の先生方と協力し、魅力を伝えていく機会を作っていきたい。医大と日赤でシーリングで悩むような状態にしていかないといけない。

(平石委員)

他に意見等はないようなので、次の議題に移る。

[議題（６）和歌山県立医科大学医学部地域枠の募集人員の変更について【報告】]

（事務局 医務課 小守主査）

和歌山県立医科大学医学部地域枠の募集人員の変更・令和８年度地域枠の入学予定者について説明（【資料６】【参考資料１】関係）。

（平石会長）

事務局より、和歌山県立医科大学医学部地域枠の募集人員の変更等について説明があった。ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

（中尾委員）

県民医療枠Ａを３名増加させた背景としては、県内に残っていただく医師を増加させる狙いと、県民医療枠Ａの学生は入学後も優秀な成績を残してくれる学生が多く、学校推薦型選抜によって優秀な学生を獲得していくといった意図もある。

そうであれば、もう少し増加させていく方がいいのではないかという意見もあると思うが、学生教育の質を担保できないということも危惧されるため、まず現状は３名増員し、入学後どのような成績を収め、国家試験を突破していくのか、きちんと見守っていきたい。

（平石委員）

他に意見等はないようなので、次の議題に移る。

[議題（７）次期医師確保計画の策定に向けたスケジュールについて【報告】]

（事務局 医務課 小守主査）

次期医師確保計画の策定に向けたスケジュールについて説明（【資料７】関係）。

（平石会長）

事務局より、次期医師確保計画の策定に向けたスケジュールについて説明があった。ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

（山下委員）

国が提示した目標医師数 2,113 人、県としての目標医師数 3,090 人には、大きな乖離がある。国の目標医師数まで減少させて、和歌山県の医療が成り立つと国は本気で考えているのか疑問が残る。そうは考えていないため、県としての目標医師数を設定しているのだと思うが、国に対して意見を言うような機会はないのか。

（事務局 医務課 小守主査）

2,113 人については、国のガイドライン上、医師少数区域を脱するための医師数として示されているものを参考として掲載している。ここまで減少させなければならないということではない。

(山下委員)

国が示している極端な目標数値をもとに、あらゆる計画を策定する意味が分からない。この実態に沿わない数値を基準に、本県の医師の多い少ないが判断され、専攻医のシーリング等に影響が及ぼされる。このことについて、国に意見を挙げることはしないのか。

(事務局 医務課 小守主査)

医師多数県ではあるが、へき地等を抱える県である鳥取県等12県と共同して、厚生労働省に一昨年からの要望活動を行っている。その要望を受け、国からも医学部臨時定員の削減要件の緩和等の効果があった。意見できる場というところ、このような要望活動が中心となってくる。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

医師偏在指標についても、国が新たな計算方法を検討している段階であり、今回は地理的条件も加味した指標とする方針を示しているが、現時点で本県が医師多数県では無くなるほどの大きな変化を見込めるわけではない。ただ、指標が現実とそぐわないと考えているので、和歌山県からの政府提案を始め、同様に考えている他の都道府県と一体となり、要望活動を続けており、この活動は引き続き続けていきたい。

(平石会長)

指標や数値に関しては医師会の中でも問題となっているが、あくまで1つの数値ということで、捉えていくものかと思う。

他にご質問やご意見はないようなので、次の議題に移る。

[議題(8) 和歌山県立医科大学地域医療支援センター 活動報告【報告】]

(事務局 地域医療支援センター 森永事務長)

和歌山県立医科大学地域医療支援センター活動報告について説明(【資料8】関係)。

(平石会長)

事務局より、和歌山県立医科大学地域医療支援センター活動報告について説明があった。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

(平石会長)

意見等ないようなので、次の議題に移る。

[議題(9) その他]

(平石会長)

議題9のその他について、事務局からは特に報告はないと聞いている。全体を通して、何かないか。

<特になし>

(平石会長)

本日予定していた議事は以上である。

以上